

令和4年7月12日

データサイエンス・オンライン講座の受講者募集開始 —「社会人のためのデータサイエンス演習」のリニューアル開講—

総務省は、統計リテラシー向上の取組として、“データサイエンス”力の高い人材育成のため、データサイエンス・オンライン講座「社会人のためのデータサイエンス演習」を令和4年10月4日（火）からリニューアル開講することとし、本日から受講者の募集を開始します。

本講座は、社会人・大学生を対象とした、実践的なデータ分析の手法を学習することができる講座です。是非御活用ください。

- データサイエンス・オンライン講座「社会人のためのデータサイエンス演習」の受講者の募集を本日から開始します。
- 本講座は、平成28年4月に開講し、これまで延べ約5万7千人に受講していただきました。
今回、AI技術やデータサイエンスの最新動向を踏まえ、最新のトピックスを取り入れるとともに、仮説検定や統計解析ソフトRを用いたデータ分析手法の紹介を追加するなど、内容を一部リニューアルして開講します。
- 講座の開講期間は、令和4年10月4日（火）～12月13日（火）の予定です。
本講座紹介用ウェブサイト（<https://gacco.org/stat-japan2/>）において、どなたでも受講登録が可能（登録料及び受講料無料）ですので、是非御活用ください。
※ 受講登録は、令和4年12月5日（月）までの予定です。

（別添資料）

別紙 データサイエンス・オンライン講座「社会人のためのデータサイエンス演習」の概要

（連絡先）

総務省統計局統計情報利用推進課

担当：和田、山田、石田

電話：03-5273-1023（直通）

E-mail: y-senryaku_atmark_soumu.go.jp

（スパムメール防止のため、「@」を「_atmark_」と表示しています。メールを送る際に「_atmark_」を「@」に直して入力してください。）

データサイエンス・オンライン講座
「社会人のためのデータサイエンス演習」の概要

講座の目的：ビジネス上での分析事例を中心に
実践的なデータ分析（統計分析）の手法を習得する

開講期間：令和4年10月4日（火）～12月13日（火）予定

学習時間：1回10分程度×5～7回程度（1週間）×5週
これとは別に補講・演習を実施（10分程度×11回）

課題：各週の確認テストと最終課題の実施

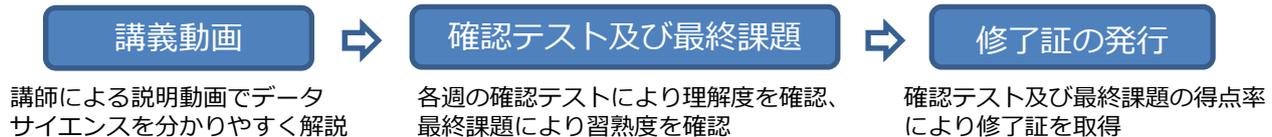
講師：データサイエンスに携わる専門家、大学教授



▶ 2022年リニューアル後の講座内容

週	各週のテーマ	内容
1	データサイエンスとは NEW	データサイエンスが必要とされる背景やデータ分析に基づく問題解決プロセスを紹介 ※AI技術やデータサイエンスの最新動向を踏まえ、リニューアルしました！
2	分析の概念と事例	記述統計によるデータの把握と比較方法について学習
3	分析の具体的手法	相関関係等の2変数の関係や時系列データの解釈について学習
4	ビジネスにおける予測と分析結果の報告 NEW	回帰分析による予測や分析結果の報告と解釈について学習 ※分析結果の解釈で重要となる「仮説検定」の考え方を追加しました！
5	ビジネスでデータサイエンスを実現するために NEW	ビジネスでデータサイエンスを実現するためのポイントについて解説 ※近年のデータサイエンスの活用の高まりを受けて、リニューアルしました！
	補講・演習 NEW	Excelや統計解析ソフトRを使って実際に演習も行います ※新たに統計解析ソフトRを用いた分析方法の紹介・演習を追加しました！

▶ 講座の流れ



▶ これまでに開講したデータサイエンス・オンライン講座

「社会人のためのデータサイエンス入門」

(講座の特徴)
データ分析の基本的な知識を学べる入門編講座

(開講時期)
初回開講：平成27年3月
直近の開講：令和4年6月
開講回数：16回 ※特別開講含む

(学習時間)
1回10分程度×6～9回程度
(1週間)×4週

(実績)
社会人を中心に延べ
約144,000人が受講

「社会人のためのデータサイエンス演習」

(講座の特徴)
「社会人のためのデータサイエンス入門」を踏まえ、より実践的な内容へ

(開講時期)
初回開講：平成28年4月
直近の開講：令和3年12月
開講回数：9回 ※特別開講含む

(学習時間)
1回10分程度×5～7回程度
(1週間)×5週

(実績)
社会人を中心に延べ
約57,000人が受講

「誰でも使える統計オープンデータ」

(講座の特徴)
公的統計の基本的な知識とデータ分析の実践的な手法を学び、統計オープンデータの活用へ

(開講時期)
初回開講：平成29年6月
直近の開講：令和4年5月
開講回数：8回 ※特別開講含む

(学習時間)
1回10分程度×5～7回程度
(1週間)×4週

(実績)
社会人を中心に延べ
約35,000人が受講

※特別開講：参考として動画の閲覧のみ可能な講座